

「ぜいはあ、」

作・演出 長野 恵美

登場人物

津島 洋美(37)……嶋木 美羽 独身OL。生きる為にイキる。ただのアヒルの子……？

金田 亜耶(25)……榊原 茜 不思議ちゃん。洋美の姪の親友(多分)。溺れるの大好き！

金田 柳子(54)……かくた なみ 超絶ミニマリスト。亜耶の母。シンプルイズベスト！

相川 佳子(42)……花美 えりい 略奪愛からの未亡人。洋美の姉。人生が昼ドラ♪

相川 美鈴(25)……渡邊 杏奈 天使な子。佳子の娘。亜耶の親友。幸せいっぱいいっぱい

上原 野乃花(32)……長野 恵美 ちよつど良い女。洋美の職場の後輩。計算とか得意です。

天島 庵(33)……坪和 あさ美 不動産会社の人。完全なる部外者その1。愛と欲望の果て。

チヨコ太郎(？)……内田 啓太 地縛霊。完全なる部外者その2。忘却、結婚、以上……！

※2019年9月の物語です。

この物語はフィクションです。

0

高級そりなマンションの一室。

舞台下手後方には2人掛け用のソファ、舞台中央には大きな丸テーブルに椅子が2脚。舞台上手後方にはテレビが。他にも、本棚やルームランプ等が設置されている。舞台中央後方には、高そりな絵画も飾られている。

開場中。チヨコ太郎が、一人で場内整理をしている。

チヨコ いらつしやいませー。会場内、とても狭くなっております。気を付けてお入りくださーい。あ、僕、内田啓太です。役者です。あ、いらつしやいませー。受付でもらったドリンク、あると思うんですけど、これは、いつ飲んでいただいても構いません。ただし、外から持ち込んだドリンクや食べ物、ダメです。ここではダメ。メッーあ、お手洗いは客席後方に凄いのが、おタバコは所定の喫煙所をお願いしまーす。上演時間85分を予定しておりますので、今のうちに諸々お済ませくださーい

等々、良い感じに場内整理をしながら、観劇に関する諸注意も。
花道付近にお客様がお座りになられたら、

チヨコ あ、花道チェック入りまーす！

と宣言し、花道を奇妙な動きをしながら往復する。

チヨコ はい。僕が通れるのでOKです。ご協力ありがとうございます。はい。花道という言葉でピンと来た人もいると思うんですけど、ここ(花道を指し示す)この道、上演中使います。役者、通ります。まあ、僕さえ通れば他のキャストさん全員通れるんで、だから僕、ここに居るんですけど。役者なのに。客演なのに。ねー。全く、理不尽な話ですよー

照明、少しの間、赤く点滅する。

チヨコ あ、これ、劇団Theater Eastの長野さんが怒っているという合図です。今回はその、劇団Theater East+主宰の長野恵美さんが音響と照明もやってるんですけどね？今回、あまりにも役者としての出番が少ないからあ、やっぱり、私ももっと目立ちたいんで、えへへ。私、怒ったら、照明とか音響で感情を表現しますね。えへへとか言いやがりまして「私が脚本を書いて演出してるんです。だから、私は神様です！えへへ」って、いや、なんか良く分からないんですけど、まあ役者としては「あ、はい。分かりました」しか言えないじゃないですか？

等々、アドリブでトークを繰り広げたり、真面目に場内整理したり、照明が変わったり、花道チェックをしたり、好きな歌を歌ったりして過ごすチヨコ太郎。

チヨコ でもね、僕思うんですけど、人間も、似たようなものだなーって。はい。誰かしらに、それぞれのニーズに合わせた役割を与えられて、それに沿って、なんとなく生きているんだな僕達はーって。だって、自分の名前ですら自分でつけたものじゃないんですよ？凄くない？これ、凄くないか？僕が役者やるぞーって決めたのも、僕としては自分の意思で決めたーって思ってますけどもしかしたら小さ

い頃に見たドラマ俳優に憧れてーとかかもしれないじゃないですか？つまりその場合、僕が今、役者をやっているのは、その俳優のせい？おかげ？自分の意思じゃない？こつやつて今僕が日本語を流暢に喋っているのも周りから教えられたからだし、あ、もうすぐ開演時間だなーって思えるのも、決められた時間を守らなければならぬという概念が僕の中に存在しているからであって

やがて、開演合図の曲が流れる。

チヨコ お、この曲が流れたという事は、そろそろ開演です！開演ですよみなさん！
本当にお待たせしましたー……あ、携帯スマホは電源を切るか、ブーツ！て、なんか、あの、ブーツ！て、なんか震える奴すら出ない設定にしていただいて

喪服姿の佳子と美鈴、チヨコ太郎の後方に登場。佳子は泣いている。

【2019年初夏・相川顕吉氏葬儀】

チヨコ あっ

佳子 顕吉さん……

美鈴 ……

佳子 ……ねえ……どうして、泣かないの……？

美鈴 ……

佳子 貴女のお父さんが死んだのよ……っどうして、泣かないの……

美鈴 ……

佳子 貴女はいつもそう

佳子、退場。美鈴、俯く。チヨコ太郎、滅茶苦茶気まずい。間。

チヨコ えっと……(頭を押さえる)うっ………ここは何処………私は誰………？

チヨコ太郎、頭を抱え、壁の中に消える。

美鈴 ……ごめんなさい

暗転。開演。

1

【2019年晩夏・によぜがもん如是我聞不動産】

電話の呼び出し音。

庵声 はいはいはいはい

明転。電話を持った庵、登場。

庵

あ、自分で持ってたー。がちやつ。大変お待たせ致しました！如是我聞不動産の天島庵でございます！あ、でも私、もうすぐ天島庵ではなくなってしまうんです。私、実はもうすぐ、結婚するんです！結婚して、天島ではなくなってしまうんです！キャツ！え、何々？じゃあその、新しい苗字を教えろよ。この、うっかりさんめ！ですって？いやー、教えたのは山々なんですけど、私、実は、結婚と同時に、寿退社してしまうんです！キャツ！言っちゃった！！だからせめて、「ニ」では最後の最後まで天島庵で通そうかなあつて

スマホを持った洋美(電話の相手)、登場。思い詰めている様子。

洋美

あの！

庵

はい？

洋美

高級マンションを購入したいんですけど……！

庵

はい………え？

曲。洋美と庵、電話をテーブルの上に置いて向かい合う。

洋美

よろしくお願いします。津島です

庵

よろしく願います。天島です。え、やだー。何か、思い詰めてませんか？顔色、

洋美

凄く悪いですよ？

庵

そうですね

洋美

仕方がないなあ。私が幸せを分けて

庵

私はその事に気がついたのは、私が4歳の時でした！

洋美

何か急に始まった

佳子声

あの日、私は家族と一緒に、ショッピングモールに来ておりました

洋美

洋美ー。こっちだよー

洋美

お姉ちゃん待ってー。と、その時です

車、出てきて洋美を轢く。

洋美

ぐはあ！

車

あ、やべ

佳子声

洋美ー……？

洋美

私は、生まれて初めて車に轢かれました

庵 下のお名前、洋美さんって言うんですね

洋美 感想そこかよ。驚くべきはこの時、私のすぐ傍に、母と父が居たという事です。何なら私は母と手をがっすり繋いでいたし、お姉ちゃん待ってー。とは言ったものの、私はまだ車道に飛び出してすらいなかった。いや、飛び出す直前だったけど。そう。つまり、車の方が一方的に、私に向かって突っ込んで来たのです！

庵 あらま

車 悪気はなかったんだよう(退場)

洋美 私は全身打撲と肋骨を折る重傷。なのに、私とがっすり手を繋いでいた母は無傷。こんな荒唐無稽な事、普通あると思いますか？ありませんよね普通？

庵 ウケる

洋美 だから私、その時悟ったんです。ああ、私の人生はつまり、こんなもんだってあらま

洋美 まあ実際こんなもんでしたよそれからも。勉強もスポーツも、何だって頑張った。なるべく良い子でいようと家のお手伝いも積極的をやってきたし、社会のルールも絶対に守ってきた当たり前だけど。大学だって奨学金を借りて自力で通った。新卒で就職先も決めた。無論年金も税金も滞りなく全額支払ってる！！なのに、みんなから愛され、注目されるのはいつも姉の方。あと、男にモテるのも姉の方。私の彼氏達はみんな、私が意外と面倒臭い女である事に気づいた瞬間去って行く。みんなそう！姉の男達は正反対なのに

庵 姉って、さっき声だけで登場してきた人？

洋美 そうその人！！いや、別に姉が何も頑張っていないのに愛されるとか、そこまです言っつもりはないんです。ただ、私と違って、ほんのちよつとの努力で愛されやがってと言いますか、可憐で？儂げな？雰囲気を出せる人って、なんてムカッ

庵 (遮って)あーあーあーあー分かります分かります分かりますー！ムカつきますよねー、そういう可愛いだけでチャホヤされてる女達

洋美 分かりますか？

庵 分かりますよー。まあ、全然努力してないとは言いませんけど

洋美 うん。うん

庵 だからこそ堂々と責められなくてムカつくって言うか
ええ、ええ

洋美 私なんかダーリンからよく言われますもん「お前は一人でも、てか、サバンナでも生きていけそうだな」って

洋美 えー、貴女も言われたんですかサバンナー

庵 えー、洋美さんも言われたんですかサバンナー

洋・庵 かわいそーう

洋美 てか、姉だけじゃないんです。うちの会社にも居るんですよそういう女。しかもそいつ、姉と違って醜女なのに

庵 ショメ？

洋美 はい。みにくく、すさまじい女。黄泉の国の女鬼の類です

庵 何それこわーい

洋美 なのにあの女、仕事もろくに出来ない癖に男達からチャホヤされて仕事。あ、そうでしたこれ仕事中心でした

洋美 そうでした高級マンションを購入したいんでした私では改めまして、どんなマンションをお探ですか？

洋美 高級マンションです

庵 ザックリすぎる

洋美 とにかく高級なら何でも良いんです。今まで実家暮らしだったんで、頭金と引越し代くらいは貯金あります。多分。ちなみに、年収は約300万です

庵 安っ！？あ、すみません。驚きすぎてつい本音が。え、300万？

洋美 はい。月収で言えば手取り20万ちょい……

庵 そ、それで、高級マンションを？

洋美 はい。これで、高級マンションを……

庵 いやいやいや、普通のアパートとかにしておきましょう？都内でも月々7、8万もあればそれなりの所には

洋美 いいえ。高級マンションが良いんです。月々の返済15万までは出せます

庵 正気ですか？

洋美 正気です。いいえ、狂ってます

庵 どっちー？

洋美 どっちもです。正気のまま狂ってます私。だからですね、もう疲れちゃったんです人生。だから

庵 そんな！死なないでください……

洋美 話を聞いてー。だから私、この息苦しさから解放される方法を必死に考えて考えて考えて、そして、気がついたんです。そもそも最初から、何も期待しなければ良いのでは？と

庵 ほう

洋美 努力が報われる事、誰かに気にかけてもらえる事、自分より努力していないのに愛されている誰かの存在。それらに捕らわれているから辛いのであって、それら欲望や贅沢を振り切って解脱する事さえできれば、私も楽になれるのではないかと思ひまして

庵 贅沢、ですか

洋美 はい。贅沢です。生きてるだけでも幸せ者なのに、それ以上を望むだなんて。知ってますか？贅沢って、贅が、沢山あるって意味なんですよ

庵 あれ、馬鹿にされてるのかな？

洋美 贅。つまり、おごり。不必要なもの。無駄なもの。生きて行く上で必要ながない余計なもの特にサバンナでは……

庵 ーこ、日本だぞ

洋美 むしろ、贅なんかがあるからこそ、人は息苦しくなっていると思うんですよね私。例えば私、自分の事をずっと、醜いアヒルの子だと思ってきたんですけど

庵 え、人間ですよ？

洋美 アンデルセン童話の、醜いアヒルの子みたいに、今は醜いアヒルの子でも、いつかは美しい白鳥となって、本当の仲間達と一緒に、幸せに向かって羽ばたけるのではないのかって

庵 人間ですって

洋美 それだけを頼りに今まで頑張ってきたのに……私は、ただの、汚い、普通の、アヒルの子だったのです

庵 人間の子ですよ……(飽きてきた)

洋美 今更そんなクソつまらない事実、受け入れられると思いますか？がっかりですよ。今までの人生を返してくれって感じですよ。でも、思ったんです。そもそも、こんな童話さえ知らなければ、それ以前に、期待とか希望とか夢とかそういうの？最初から持っていないければ、こんなに苦しむ事もなかったのでは？と。だから、私、距離を置く事にしたんです。贅と

庵 はあ

洋美 贅と距離を置いて、欲望とおさらばする事。これからも、生きていく為に。これが、私の願いです

庵 そうですか。そりゃあ大変だ。でも津島さん。贅と距離を置きたいなら、なんで高級マンションなんですか？仕事を辞めて、その辺の河川敷に段ボールハウスでも建てて、楽しいホームレスごっこにでも興じれば良いじゃないですか

洋美 酷い奴を雇っているなあこの不動産会社は……いいえ。それはしません。何故なら私は、姉と違ってかまっちゃんでありませんので

庵 私、津島さんのお姉さん、知らないんですけど

洋美 河川敷に段ボールハウスなんか建設しちゃったら、みんなから心配されちゃうじゃないですか？そんなかまっちゃんでちゃんみたいなさ、私には無理です……

庵 はあ

洋美 だから私考えたんです。最善策を。そして、導き出したんです。高級マンションを購入するという最適解を。高級マンションに暮らして、半強制的にローン地獄に陥って、最低限の生活費で細々と暮らす。これで贅沢とは距離を置きつつ、高級マンションのお陰で誰にも極貧生活を悟らせない。どうですか？素晴らしい。

洋美 素晴らしすぎるでしょ？この計画……我ながら感動でむせび泣きました！むせび泣いてないけど……

庵 だからどうですか。まあ、そういう事なら良いですよ。とびっきりのマンションを、ご紹介させていただきます

洋美 本当ですか！

庵 はい本当です。私もこれが、天島庵としての最後の仕事になると思いますので。誠心誠意、努めさせていただきます

洋美 あ、そう言えば結婚されるんですってっけ？おめでとっついでいます

庵 ありがとっついでいます……でもですね津島さん。この世界は、津島さんが思っている程、残酷ではないんですよ。私も、今までいっぱい辛い事がありましたけど、そ

洋美　　れでも今は、見ていただいて分かる通り、幸せ、いっぱいです……ぶふっ(幸せ笑い)
はっ倒してえ〜

庵　　そう！幸せは、頑張っていれば、いつか必ず辿り着くものなのです！だから津島
さん。しばらく距離を置いて、頭の中がすっきりしたら、また、よりを戻してあ
げてくださいね？

洋美　　より？誰とですか？

庵　　誰、っていうか、ほら、さっき津島さんが言ってたあれ！贅沢……いや、贅とです
贅！

洋美　　はあ

曲。照明変化。オープニング。

柳子、佳子、美鈴、亜耶、登場。庵と共にタイトルテロップを出す。

『ぜいぜいあ、』

柳子、佳子、退場。美鈴、同じく退場しようとする亜耶を呼び止める。
亜耶、立ち止まるも、やがて小走りに退場。美鈴、重い足取りで退場。

2

庵　　流石に、津島さんが想像されている様な高級マンションのご紹介は難しいんです
けど、津島さんが宜しければなのですが、所謂、いわゆる物件でしたら、直ぐ
にご紹介可能です。通常よりお安くなりますし、いや、お安くなってしまっんで
すけど、その分、いわゆる過去の事故物件ですから。まさに、津島さんがおっしゃら
れていた、外から見たら極楽・内から見たら地獄！ご期待に添えると思います！
どうやらですね、本当に出るらしいんですよ。幽霊

庵、退場。

洋美、ソファーに座っている。

【2019年9月・ロマネスクタワー・305号室】

洋美　　あー、極楽極楽……いけない。贅沢は敵贅沢は敵贅沢は敵贅沢は……

野乃花、登場。

野乃花　先輩？大丈夫ですか先輩！？

洋美　　うおっ！？あ、野乃花……うん。全然平気大丈夫何でもない何でもない

野乃花　全然大丈夫そうには見えませんでしたよ？

洋美　　気にしないで。良くある事だから

野乃花　もう。先輩は、いつもそう

洋美 いつも？

野乃花 大丈夫とか、平気とか、何でもないとか。本当は、全然大丈夫じゃなくせに。先輩は、もっと素直になった方が良いです。後輩の私なんかに、言われたくないかもですけど

洋美 ありがとう。でも、本当に大丈夫だから。私、強い女だし

野乃花 そうですね。先輩は、私なんかと違って強い女です。でも、だからこそ私、心配なんです！

洋美 野乃花

野乃花 私、先輩の事、本当に感謝してらんです。だって、私がここまで仕事を頑張ってこられたのは、先輩が、いつも私を庇ってくれたからです。こんな、仕事も何も出来ない、ドジでノロマな亀、さつさと見捨てちゃえば良かったのに……
洋美 そんなの、あんたの上司なんだから当たり前でしょ？

野乃花 当たり前なんかじゃないです。他の人達は、先輩程優しくなかったです

洋美 別に私も優しくなんか

野乃花 いいえ、優しいです。津島先輩は、優しい。ほら、私、こんなだから、女の子から嫌われやすくて……でも、先輩だけは他の女どもと違いました。こんな私にも分け隔てなく接してくれて、私、どれだけ救われたか……だから、絶対に幸せになつてほしいんです先輩には。いや、幸せにならなくちゃ駄目なんです先輩は！
野乃花……ごめんなさい。私、あんたの事、少し誤解してた……

野乃花 誤解ですか？

洋美 ううん。気にしないで

野乃花 はい。あ、じゃあ私、そろそろ行きますね

洋美 え、もう行くの？

野乃花 はい。人を待たせてるんで

洋美 そつか。でも、本当にありがとうね。こんな立派なインテリア、ただ同然で譲ってくれて

野乃花 良いんです。いつもお世話になってますから

洋美 にしてもこれ、え？本当に大丈夫なの？殆ど新品じゃない？

野乃花 大丈夫です。私の叔父も、先輩のお役に立てて、きつと天国で喜んでます

洋美 あれ、そういう経緯だったっけ？

野乃花 え？あ、はい。あれ？もしかして、そういうの、ダメな人ですか？

洋美 い、いや、全然。むしろ、この部屋自体がそんな感じだし

野乃花 えー！？こゝ、事故物件なんですか……？

洋美 まあ、なんか、たまに出るらしくって

野乃花 え、怖い。私、そういうのダメな人なんですよー

洋美 お、おう

野乃花 というわけで、今度こそ行きますね。幽霊も怖いし

洋美 お、おう

野乃花 先輩、グット・ラック

洋美 お、おう

野乃花、退場。

洋美 幸せ。かあ……

洋美、溜息を吐く。佳子(回想)、登場。

佳子 また溜息？

……

佳子 溜息なんか吐いて。幸せが逃げちゃっても知らないんだから

……

佳子 ねえ洋美。私さ、そろそろ……戻っても、良いかな？

……

佳子 私、また、家族4人で暮らしたい。お父さんと、お母さんと、洋美と！

……

佳子 お父さんもお母さんも、怒って、は、いなかったけど……いや、怒ってたか。あれ

は。ねえ、まだ怒ってるかな？流石にもう、時効かな？

知らないよ

佳子 顕吉さんも死んじゃったし

佳子、泣く。

佳子 美鈴も、結婚するって言うし、顕吉さん死んじゃったし……私、またひとりぼ

ちになっちゃった……これも、天罰なのかな？私はただ、信じただけなのに

美鈴んとこ行けば良いじゃん

行けるわけじゃないでしょう？！私、あちらのご両親に、良く思われてないし

自業自得でしょ

そんなの私が一番分かってるよ……？

……

……「ごめんなさい……」

……怒ってないと思うよ

？

洋美 父さんも母さんも、多分大丈夫だよ。お姉ちゃんの事大好きだし。むしろ、あれからずっと心配してたよ。お姉ちゃんと美鈴の事

……そっか(嬉しそう)

……うん

佳子 ありがとう。洋美は、やっぱり優しいね

別に優しくなんか

亜耶 うん
洋美 別に良いけど……え、いつ？
亜耶 あ、あのね、実は
洋美 ん？

洋美、不穏な空気が漂っている事に気がつく。

洋美 え、何これ……？
亜耶 洋美お姉ちゃん？
洋美 ごめん。かけなおす
亜耶 大丈夫なの？あ

洋美、LINE通話を切る。亜耶、退場。

洋美 何？何なのこの禍々しいオーラは……まさか、本当に、幽霊！？
チヨ声 うううう……うううう……
洋美 何か聞こえる！？
チヨ声 したい……ううう……したいよう……ううう……
洋美 何？何がしたいの？
チヨ声 ……っこん！
洋美 え、な、何て？
チヨ声 こん！……結婚……！
洋美 ケツコン……はい？
チヨ声 結婚したいよ……う……！……

チヨコ太郎、壁の中から登場。

洋美 ……
チヨコ ううう……ぐすん……結婚したい……結婚したいよう……
洋美 ……
チヨコ 結婚したい……結婚したいよう……
洋美 ……
チヨコ 結婚し
洋美 おい
チヨコ あ、はい？
洋美 あのー……え、どちら様ですか？
チヨコ ……え？
洋美 いや、えっ？じゃなくて
チヨコ 僕の事、見えるんですか？

洋美 はい

チヨコ え、マジで？

洋美 マジです。はい

チヨコ あー、そっかー。見えちゃうのかー。そりゃまいったなー

洋美 あの

チヨコ はい

洋美 え、どうやって、入ったんですか？

チヨコ え？

洋美 この部屋

チヨコ どの、どうやっても何も……最初から居ました

洋美 はあ？

チヨコ 最初から居ました。ずっと、ここに、最初から

洋美 最初って、いつ？

チヨコ 最初は最初です。最初からです。僕、この部屋の、地縛霊なんで

間。洋美、チヨコ太郎の頬をぺちぺちする。

チヨコ あはは。あはは。あはははは

洋美、スマホを手に取る。

チヨコ どうです？結構モチモチしてたでしょ？

洋美、警察に電話しようとする。

チヨコ ちよいちよいちよいちよいちよーい！……！

チヨコ太郎、必死にそれを止める。

洋美 ちよつと

チヨコ 今、どこに何をしようとしたのかな？

洋美 普通に、警察に通報ですけど

チヨコ そんな馬鹿な事はお止めなさい！

洋美 はあ？

チヨコ 僕は地縛霊ですよ？そんな馬鹿な事をしたら、キチガイ扱いされるのは、僕で

洋美 別にそれで良いですけど

チヨコ ちよいちよいちよいちよいちよーい！……！

洋美 うるせえ！

チヨコ 考え直した方が良い
洋美 ……
チヨコ (イケボで)考え直せ。女
洋美 ……(通報しようとする)
チヨコ ちよいちよいちよいちよいちよいちよーい……

チャイム音。

洋美 (舌打ち)はーい
チヨコ 舌打ちの仕方が悪人のそれ

洋美、玄関へ。

洋美声 ……亜耶ちゃん?
亜耶声 洋美お姉ちゃん
洋美声 えっと……
亜耶声 ……お邪魔します
洋美声 え?ちよつと

亜耶、早歩きで登場。それを追いかけるように洋美、登場。

亜耶 うわー、凄い。本当に高級マンションだー
洋美 亜耶ちゃん、勝手に
亜耶 家具もちゃんとある。凄ーい
洋美 亜耶ちゃん!
亜耶 私、家出してきた……!

間。

洋美 ……家出?
チヨコ あら
亜耶 (頷く)だから、ここに暫く居させてください。お願いします
洋美 ……えっと……駄目
亜耶 え?
洋美 駄目。うん。今は(チヨコ太郎を見る)色んな意味で、駄目
亜耶 そんな……
チヨコ 僕は、一向に構いませんよ?
洋美 ちよつと黙れ

亜耶、背負っていたリュックの中から、カエルのパペットを取り出し、右手に嵌める。

亜耶 (カエルを操って) オイラからもお願いするぜ

洋美 はい？

亜耶 (カエルを操って) お願いだよ姉御。亜耶の事、置いてやってくれよ

洋美 何これ？

亜耶 (アドリブで名前をお願いします) です

洋美 (アドリブで名前)？

亜耶 (カエルを操って) そうだぜ。オイラの名前は(アドリブで名前)だ！亜耶の、勇逸の親友ってやつだぜ。かれこれ、20年来の付き合いだぜ(亜耶に戻って)(アドリブで名前)………やー

亜耶、洋美にカエルのパペットを見せつける。洋美、カエルのパペットを優しくビンタ。

亜耶 (カエルを操って) あ………！………？

洋美 亜耶ちゃん。真面目にやって

亜耶 (カエルを操って) ふざけるな。亜耶はいつでも真面目だぜ

洋美 亜耶ちゃん

亜耶 (カエルを操って) 金だつてちゃんとあるんだぜ
洋美 金？

亜耶、リュックから通帳を取り出し、洋美に見せる。

洋美 ……？どうしたの、こんな大金……

亜耶 (カエルを操って) 遺産だぜ

洋美 遺産？

亜耶 (カエルを操って) 亜耶の、お父さんだった人の遺産だぜ

間。何とも言えない空気が漂う。チヨ太郎、亜耶のリュックから、気になるものを発見する。

チヨ (亜耶に) あのー、すみません

亜耶 はい？………ひいっ………？

洋美 おま

チヨ つかぬ事をお伺いしますが(リュックの中を指さして)これ、何ですか？

亜耶 ……これ？

洋美 ごめん亜耶ちゃん。そいつは

亜耶 これは(リュックの中から)ニール袋を取り出し(お菓子

チヨ オカシ？オカシとは何ですか？

亜耶 ひっ
洋美 相手しなくて良いから
亜耶 でも
チヨコ ねえ、オカシって？オカシって何？何！？
亜耶 うっう……
洋美 ちよつと、この子、怖がつてるでしょー！？
チヨコ あ、これは失敬。つい熱くなっちゃいました僕とした事が……
亜耶 何これ。怖い(泣く)
洋美 ああつ。何か、ごめん……
亜耶 え、何これ？え？幽霊？
洋美 え？
亜耶 凄く怖いんですけど……
洋美 (亜耶ちゃんには、こいつ(チヨコ太郎)が、幽霊に見えるの？
(頷く)
洋美 そうなの？どつからどつ見たって、ただの小太りのおっさんじゃない？
チヨコ 失敬だな君は
亜耶 おっさん？そいつ、おっさんのの？
洋美 どつからどつ見てもそつでしょ？
チヨコ まあまあまあ。落ち着きなさい2人共
洋美 は？(ガチギレ)
チヨコ 怖い。えーつと、亜耶さん、でしたっけ？
亜耶 (カエルを操って)(アドリブで名前)だぜ
チヨコ わーお(アドリブで名前)さん。貴方には僕が、どんな風に見えていますか？
洋美 (カエルを操って)なんか、どす黒い、人型の排気ガスみたいに見えるぜ
それは怖い
亜耶 (カエルを操って)ああ。滅茶苦茶怖いぜ
チヨコ とまあ、亜耶さん
亜耶 (アドリブで名前)
チヨコ (アドリブで名前)さんの話から分かる通り、僕は、人によって見え方が変わるんです。洋美お姉ちゃんさんの様にただのおっさんに見えたり
洋美 お姉ちゃん言っの止める
チヨコ (アドリブで名前)さんの様に、影と声しか認識出来なかったり
亜耶 それは、私達に靈感があるって事ですか？
洋美 何でちよつと嬉しそつなの？
チヨコ お2人に靈感があるかどうかは分かりませんが、まあ少なくとも、お2人が、僕に近しい存在であるという事は分かります
亜耶 近しい存在？
チヨコ この世よりも、あの世に近しい存在という事です
亜耶 ふーん(カエルを操って)そつなんだ

洋美 ……

チヨコ ……ところで、オカシって何なんですか？

亜耶 (カエルを操って) お菓子はお菓子だぜ

亜耶、リュックの中のビニール袋から、お菓子を取り出す。

亜耶 (カエルを操って) うんしょ。うんしょ。ポテチだろ？ラムネだろ？ガムだろ？チヨコレートだろ？

チヨコ それ!!!

亜耶 (カエルを操って) あ？

チヨコ それ(チヨコレート)、僕の事を最初に見つけてくれた人が、よく食べてたんです

亜耶 (カエルを操って) チヨコレートを？

チヨコ チヨコレートって言うんですね、それ

亜耶 (カエルを操って) ああ。食べるか？

チヨコ いえ、僕、地縛霊なんです

亜耶 (カエルを操って) あそっか

チヨコ すみません

洋美 ねえ、亜耶ちゃん

亜耶 (カエルを操って) 何だよ？

洋美、亜耶の右手から、カエルのパペットを奪う。

亜耶 あっ！

洋美 どうして、家出して来たの？

問。

亜耶 聞いても、よく分からないかも……

洋美 別に良いよ。亜耶の言葉で、ちゃんと説明して？

亜耶 うん……実はね

前日・金田家】

亜耶 (カエルを操って) ニコは何処？オイラは誰？……昨日はバイトがお休みで、一日中暇だったので(アドリブで名前)を使って、アイデンティティの確立について考えていました

洋美 お、おう

亜耶 (カエルを操って) 分からない。分からないんだぜ………そうだ！(アドリブで別の名前をお願いします)に聞いてみるんだぜ！

洋美 (アドリブで別の名前)?

亜耶 (アドリブで名前)の双子の妹です

洋美 お、おう

亜耶 (カエルを操って)あれー?(アドリブで別の名前)ー?おかしいな……いつもは「の辺ににいるのに……あれ?マジで居ない?あれ……?」

柳子、ウキウキしながら登場し、ドアをノックする(マイム)

柳子 コンコンコン。亜耶。入っても良い?

亜耶 はっ(カエルを操って)うるせえババア!入って
柳子 がちゃっ

亜耶 (カエルを操って)来た!?!ふざけんなババア馬鹿!何で勝手に入って来るんだよ!?!

柳子 ちゃんとノックした上に許可も取ったわよ?

亜耶 (カエルを操って)判断が早すぎる!人の話は最後まで聞けよババア!

柳子 ごめんちゃい。ねえ、亜耶。何か、気づかない?

亜耶 (カエルを操って)はあ?

柳子 ヒント1!お母さんの趣味は、断捨離です

亜耶 (カエルを操って)だから?

柳子 ヒント2!ほらあ、よく見てー?亜耶のお部屋、昨日より少し、広くなってると思わない?!

亜耶 (カエルを操って)……まさか

柳子 ヒント3!カエルさんです

亜耶 (アドリブで別の名前)……!?!

柳子 おやおやおや。もう、気づいちゃったかな?

亜耶 (アドリブで別の名前)……何処にやったの?

柳子 捨てました

亜耶 え?

柳子 亜耶の為に、捨てました

亜耶、膝から崩れ落ちる。

亜耶 (アドリブで別の名前)……

柳子 亜耶……(亜耶を抱き締める)ごめんね。辛いよね?苦しいよね?(アドリブで別の名前)も、(アドリブで名前)も、亜耶の大切なお友達だもんね。でもね、亜耶。この世界には、私達よりも貧しくて辛くて苦しい思いをしている人達が沢山居るの。だから、亜耶。お母さんと一緒に、この悲しみを乗り越えよう?私達、たった2人だけの親子なんだから……

亜耶 え、待って待って待って。ちょっと待って?!